

研究課題：20～40歳代の労働者を対象としたナッジを活用した漫画冊子  
配布による予防歯科行動促進プログラムのプロセス評価  
（日本健康教育学会 論文投稿中（現在条件付き採用））

研究者名：後藤理絵<sup>1)2)</sup>，竹林正樹<sup>3)</sup>，関根千佳<sup>1)</sup>，福田洋<sup>4)</sup>

所属：1)公益財団法人ライオン歯科衛生研究所，2)帝京大学大学院，  
3)青森県立保健大学大学院，4)順天堂大学大学院

20～40歳代の労働者向けにナッジを活用した予防歯科行動促進冊子作成のプロセス評価を行うことを目的に行った。

本研究では、20～40歳代労働者の予防歯科行動促進のため、ナッジを設計した職域用漫画冊子を作成した。読者像の具体的設定やストーリー構成、絵コンテ作成までを行い、作画は外注した。プロセス評価として作成費用と作成担当者の意識の変化、読者の満足度等を調べた。作成費用は実績から、作成担当者の意識はインタビューで把握し、読者満足度等はナッジ群（ナッジ型漫画冊子を配布）と対照群（情報提供型冊子を配布）に無作為に割り付け、ウェブ調査を行った。

漫画冊子作成費用は約88万円で、作成後に担当者の意識向上が見られた。冊子の印象（解析対象：ナッジ群119人，対照群120人）は、表紙は、「面白そう」（ナッジ群，対照群の順に48.7%，25.8%），「読みやすそう」（79.0%，48.3%； $P < 0.001$ ），「イラストが良い」（57.1%，28.3%； $P < 0.001$ ），「情報量が多い」（26.9%，59.2%； $P < 0.001$ ），「読むのが不快」（7.6%，18.3%； $P = 0.013$ ）で、冊子本編内容の印象と一致傾向が見られた（クラメール連関係数（V）読みやすい=0.601，不快=0.531）。対照群では歯周病の知識に有意な変化がなく、ナッジ群は有意に増加した。以上から、ナッジ型漫画冊子は、読者に好印象を与え、知識向上に役立ち、特に表紙のナッジが重要と示唆された。

本研究にはいつかの限界がある。1つ目に、ウェブ調査の際に調査項目の回答数に応じて参加者に付与されるポイントが回答者への経済的インセンティブとなり、回答結果に影響した可能性がある。対照群では、18.3%が表紙で不快感を持ったにも関わらず、97.5%が読了した。これは、回答者がポイント取得のために読み進めた可能性を否定できない。今後はポイント付与といった経済的インセンティブのない状態で調査する必要がある。2つ目に、本報告では、今回の冊子を通じた予防歯科行動の実践までは評価できていない。読者のプロケアやセルフケアの実施状況を併せて調査していくことが望まれる。